

Y a m e
八女市内遺跡群 5

福岡県八女市新庄・平・国武・緒玉所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第108集

2015

八女市教育委員会

Y a m e
八女市内遺跡群 5

福岡県八女市新庄・平・国武・緒玉所在遺跡の発掘調査報告書

八女市文化財調査報告書 第108集

2015

八女市教育委員会

序

合併前の旧八女市南部にあたるこの地区は、清流矢部川によって育まれた肥沃な大地が広がる実り豊かな地域です。農業の発展が期待されて八女市南部地区県営圃場整備事業が開始された昭和57年当時は、この地区の遺跡の存在が知られておらず、事業の進展に伴い多くの遺跡が発見され、発掘調査が行われてきました。今回、ようやくこのような形で発掘調査報告書を刊行し、発掘の成果を公開することができました。

この報告書をこれからの文化財保護のためにご活用していただければ誠に幸いです。

平成27年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西 島 民 生

例 言

1. 本書は、八女市新庄字川原、八女市平字新替、八女市国武字打越所在遺跡における発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査で検出した遺構の名称・番号については昭和63年～平成元年の調査時に準じて付している。
4. 本書に使用した現地測量については、昭和63年～平成元年に実施された発掘調査当時の担当責任者を中心として参加者で分担して行っている。
出土遺物の実測図作成については岩戸山歴史資料館において一部を除き実施されている。
5. 本書に使用した現地写真は、発掘調査時の担当責任者が撮影したものである。出土遺物の撮影については、岩戸山歴史資料館において本報告における整理担当者が撮影した。
6. 本書使用の方位については、すべて磁北を基準としている。
7. 本書の執筆、及び編集については主として永田が行なった。この折、平成元年に刊行されている埋蔵文化財調査概報（八女市文化財調査報告書 第18集）を参考とした。
8. 本書に関する調査記録、及び出土遺物は現八女市の岩戸山歴史資料館において保管・収蔵している。

本文目次

1 調査の経過

(1) 調査に至る経過

(2) 調査体制

2 遺跡の立地と歴史的環境

3 調査の内容

(1) 発掘調査の概要

ア 川原遺跡

イ 新替遺跡

ウ 打越遺跡

挿図目次

- 第 1 図 周辺遺跡分布図 [1/12,500]
- 第 2 図 川原遺跡 調査区 [1/5,000]
- 第 3 図 川原遺跡 遺構配置図 [1/200]
- 第 4 図 川原遺跡 1 号竪穴住居 (SB-01) 実測図 [1/60]
- 第 5 図 川原遺跡 2 号竪穴住居 (SB-02) 実測図 [1/60]
- 第 6 図 川原遺跡 3 号竪穴住居 (SB-03) 実測図 [1/60]
- 第 7 図 川原遺跡 4 号竪穴住居 (SB-04) 実測図 [1/60]
- 第 8 図 川原遺跡 5 号竪穴住居 (SB-05) 実測図 [1/60]
- 第 9 図 川原遺跡 1 号溝状遺構 (SD-01) 土層断面図 [1/40]
- 第 10 図 川原遺跡 1 号土塋 (SK-01) 実測図 [1/40]
- 第 11 図 川原遺跡 2 号土塋 (SK-02) 実測図 [1/40]
- 第 12 図 川原遺跡 3 号土塋 (SK-03) 実測図 [1/40]
- 第 13 図 川原遺跡 4 号土塋 (SK-04) 実測図 [1/40]
- 第 14 図 川原遺跡 1 号竪穴住居 (SB-01) 出土遺物実測図 [1/4]

- 第15図 川原遺跡 2,3号竪穴住居 (SB-02,03) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第16図 川原遺跡 4号竪穴住居 (SB-04) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第17図 川原遺跡 2,4号竪穴住居 (SB-02,04) 出土石製品実測図 [1/1]
- 第18図 川原遺跡 5号竪穴住居 (SB-05) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第19図 新替・打越遺跡 調査区
- 第20図 新替遺跡 遺構配置図 [1/200]
- 第21図 新替遺跡 1号竪穴住居 (SB-01) 実測図 [1/60]
- 第22図 新替遺跡 2号竪穴住居 (SB-02) 実測図 [1/60]
- 第23図 新替遺跡 2号竪穴住居 (SB-02) カマド実測図 [1/40]
- 第24図 新替遺跡 3号竪穴住居 (SB-03) 1号不明遺構 (SX-01) 実測図 [1/60]
- 第25図 新替遺跡 4,5号竪穴住居 (SB-04,05) 実測図 [1/60]
- 第26図 新替遺跡 6号掘立柱建物 (SB-06) 実測図 [1/60]
- 第27図 新替遺跡 7号掘立柱建物 (SB-07) 実測図 [1/60]
- 第28図 新替遺跡 8号掘立柱建物 (SB-08) 実測図 [1/60]
- 第29図 新替遺跡 1,2号土壇 (SK-01,02) 実測図 [1/40]
- 第30図 新替遺跡 3号土壇 (SK-03) 実測図 [1/40]
- 第31図 新替遺跡 4号土壇 (SK-04) 実測図 [1/40]
- 第32図 新替遺跡 1号溝状遺構 (SD-01) 土層断面図 [1/40]
- 第33図 新替遺跡 1号溝状遺構 (SD-01) 東側土層断面図 [1/40]
- 第34図 新替遺跡 1,3号溝状遺構 (SD-01,03) 土層断面図 [1/40]
- 第35図 新替遺跡 1,2,3,4号竪穴住居 (SB-01,02,03,04) 出土遺物実測図 [1/40]
- 第36図 新替遺跡 5,6号竪穴住居 (SB-05,06) 1号溝状遺構 4,7号土壇 (SK-04,07) 4,76,106,111号ピット (P04,76,106,111) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第37図 新替遺跡 2号溝状遺構 (SD-02) 出土遺物実測図 [1/2]
- 第38図 打越遺跡 2地点 遺構配置図 [1/200]
- 第39図 打越遺跡 2地点 1号竪穴住居 (SB-01) 実測図 [1/60]
- 第40図 打越遺跡 2地点 1号竪穴住居 (SB-01) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第41図 打越遺跡 2地点 1号不明遺構 (SX-01) 実測図 [1/40]
- 第42図 打越遺跡 3地点 遺構配置図 [1/200]
- 第43図 打越遺跡 3地点 2号竪穴住居 (SB-02) 実測図 [1/60]
- 第44図 打越遺跡 3地点 3号,4号竪穴住居 (SB-03,04) 実測図 [1/60]
- 第45図 打越遺跡 3地点 5号竪穴住居 (SB-05) 実測図 [1/60]
- 第46図 打越遺跡 3地点 2,3,4,5号竪穴住居 (SB-02,03,04,05) 出土遺物実測図 [1/4]
- 第47図 打越遺跡 3地点 6号竪穴住居 (SB-06) 実測図 [1/60]
- 第48図 打越遺跡 3地点 1号土壇 (SK-01) 実測図 [1/40]
- 第49図 打越遺跡 3地点 2号土壇 (SK-02) 実測図 [1/40]
- 第50図 打越遺跡 3地点 3号土壇 (SK-03) 実測図 [1/40]

- 第51図 打越遺跡3地点 4号土壌(SK-04)実測図〔1/40〕
 第52図 打越遺跡3地点 5号土壌(SK-05)実測図〔1/40〕
 第53図 打越遺跡3地点 4号,5号(SK-04,05)土壌出土遺物実測図〔1/4〕
 第54図 打越遺跡3地点 6号土壌(SK-06)実測図〔1/40〕
 第55図 打越遺跡3地点 11号,12号溝状遺構(SD-11,12)土層断面図〔1/40〕
 第56図 打越遺跡3地点 15号溝状遺構(SD-15)土層断面図〔1/40〕
 第57図 打越遺跡3地点 15号,16号溝状遺構(SD-15,16)土層断面図〔1/40〕
 第58図 打越遺跡3地点 15号,17号溝状遺構(SD-15,17)土層断面図〔1/40〕
 第59図 打越遺跡3地点 15号溝状遺構(SD-15)出土遺物実測図〔1/4〕
 第60図 打越遺跡3地点 17号溝状遺構(SD-17)土層断面図〔1/40〕
 第61図 打越遺跡3地点 17号,18号溝状遺構(SD-17,18)土層断面図〔1/40〕
 第62図 打越遺跡3地点 18号,20号溝状遺構(SD-18,20)土層断面図〔1/40〕
 第63図 打越遺跡3地点 18号溝状遺構(SD-18)及び包含層出土遺物実測図〔1/4〕
 第64図 打越遺跡3地点 21号溝状遺構(SD-21)土層断面図〔1/40〕

図版目次

- 図版 1-1 川原遺跡 全景(南から)
 図版 1-2 川原遺跡 1号竪穴住居(SB-01)東から
 図版 1-3 川原遺跡 2号竪穴住居(SB-02)南東から
 図版 2-1 川原遺跡 3号竪穴住居(SB-03)北東から
 図版 2-2 川原遺跡 4号竪穴住居(SB-04)北から
 図版 2-3 川原遺跡 5号竪穴住居(SB-05)北から
 図版 3-1 新替遺跡 全景(南から)
 図版 3-2 新替遺跡 全景(北から)
 図版 3-3 新替遺跡 1号竪穴住居(SB-01)北から
 図版 4-1 新替遺跡 2号竪穴住居(SB-02)北から
 図版 4-2 新替遺跡 2号竪穴住居(SB-02)カマド
 図版 4-3 新替遺跡 3号竪穴住居(SB-03),1号不明遺構(SX-01)東から
 図版 5-1 新替遺跡 4号竪穴住居(SB-04),5号竪穴住居(SB-05)西から
 図版 5-2 新替遺跡 6号掘立柱建物(SB-06)南から
 図版 5-3 新替遺跡 7号掘立柱建物(SB-07)西から
 図版 6-1 新替遺跡 8号掘立柱建物(SB-08)東から
 図版 6-2 新替遺跡 1号,2号土壌(SK-01,02)東から
 図版 6-3 新替遺跡 3号土壌(SK-03)北から
 図版 7-1 新替遺跡 4号土壌(SK-04)北西から
 図版 7-2 新替遺跡 1号溝状遺構(SD-01)東から
 図版 7-3 打越遺跡1地点 1号溝状遺構(SD-01)東から

- 図版 8-1 打越遺跡1地点 2号溝状遺構 (SD-02) 北から
図版 8-2 打越遺跡1地点 3号溝状遺構 (SD-03) 北から
図版 8-3 打越遺跡2地点 全景南から
図版 8-4 打越遺跡2地点 1号竪穴住居 (SB-01) 東から
図版 9-1 打越遺跡3地点 全景
図版 9-2 打越遺跡3地点 2号竪穴住居 (SB-02) 西から
図版 9-3 打越遺跡3地点 3号, 4号竪穴住居 (SB-03,04) 西から
図版 10-1 打越遺跡3地点 5号竪穴住居 (SB-05) 西から
図版 10-2 打越遺跡3地点 5号竪穴住居 (SB-05) カマド
図版 10-3 打越遺跡3地点 6号竪穴住居 (SB-06) 東から
図版 11-1 打越遺跡3地点 1号土壙 (SK-01) 北西から
図版 11-2 打越遺跡3地点 4号土壙 (SK-04)
図版 11-3 打越遺跡3地点 5号土壙 (SK-05)
図版 12-1 打越遺跡3地点 6号土壙 (SK-06)
図版 12-2 打越遺跡3地点 10号,11号,12号溝状遺構 (SD-10,11,12)
図版 12-3 打越遺跡3地点 15号溝状遺構 (SD-15)
図版 13-1 打越遺跡3地点 17号溝状遺構 (SD-17,18,19,20)
図版 14-1 新替遺跡 2号溝状遺構 (SD-02) 出土土器 (46)
図版 14-2 打越遺跡3地点 18号溝状遺構出土土器 (61)

1 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

昭和57年度を初年度として八女南部地区において実施された県営圃場整備事業は、一級河川である矢部川から山ノ井川までの地域約209haを整備する事業として計画された。昭和60年には新庄地区が事業地となり、八女市教育委員会と福岡県南筑後教育事務所が共同で現地の遺跡分布調査を実施したところ、下新庄集落の南側一帯に多量の土器片が確認された。これを受け、八女市教育委員会、福岡県教育委員会、八女南部土地改良区の三者で協議を行い、遺跡の広がりを調べるために試掘調査を実施した結果、遺跡全体の広がりは相当な範囲に及ぶことが推測された。これ以後は、圃場整備実施予定地となった地区においては事業前年度に試掘調査を実施し、事業地内の埋蔵文化財の在り方について把握を行い、関係各機関と協議を行いながら連携を重ね、圃場整備により削平・掘削が実施される部分を中心に毎年発掘調査を実施した。これ以外については遺跡保護の観点から現状保存の策が採られた。

昭和63年度には7月から今山集落北側の八女市新庄字井手口地区において調査が開始されたのと平行して、西側の新庄字川原地区、続いて9月末から平集落の北側の八女市平新替地区、10月末から国武字打越地区の発掘調査が行われ、調査は昭和63年の12月2日に現地での調査を終えている。

(2) 調査体制

【昭和63年度】 発掘調査

【調査主体】 八女市教育委員会

教育長	坂田 不二夫
社会教育課長	平嶋 敏章
同 課長補佐	杉山 信行
同 係員	梅野 満, 平田 高義, 平嶋 芳子, 赤崎 敏男 (調査担当)
同 嘱託	鹿田 昌宏 (調査担当)

【平成26年度】 整理作業

【調査主体】 八女市教育委員会

教育長	西島 民生
文化課長	井上 秀樹
同 課長補佐	月足 稔
同 参事補佐	北島 一雄
同 文化財係	係長 大塚 恵治
同 係員	永田 寧 檀 佳克 渡部 真弓

2 遺跡の立地と歴史的環境

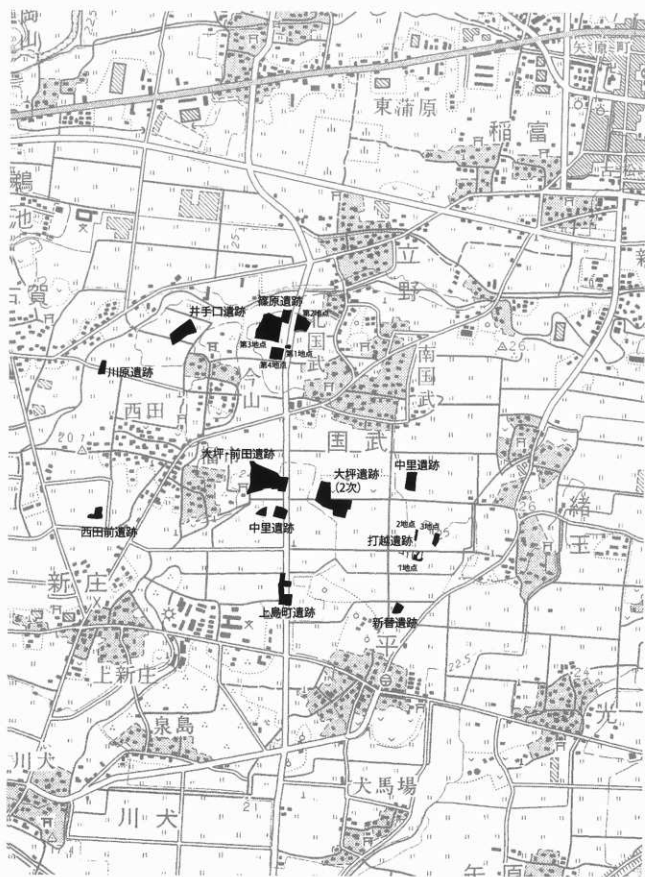
【地理的環境】

八女市は平成22年2月1日に立花町、黒木町、星野村、矢部村の2町2村と合併、福岡県下で2番目に広い行政区域を持った新たな「八女市」としてスタートする事となった。現在、広大な県境の自治体となり、多様な生産活動が見られる希有な行政体となっている。東の山間部では杉やヒノキを中心とした林業が盛んであり、その地形を巧みに利用した文化的景観としての棚田もみられ、中山間部においては地域の気象条件の恩恵を受け、高級茶葉である玉露や良質な巨峰などの生産が盛んに行われている。平野部では福岡県産の苺の主力である「あまおう」や梨、電照菊などを生産している。これらの生産活動を可能にしている立地は、耳縄山地と福岡・熊本両県を区する筑肥山地により「コ」の字状に囲まれ、大分県との境にそびえる釈迦岳山地に源を発し有明海に向け西流する一級河川である矢部川が形成したものである。

【歴史的環境】

八女市西部における遺跡の初現期は縄文時代前期まで遡ることができ、国武遺跡群や平田遺跡群等で押型文土器が数多く出土している。後期に入ると南西部のアモメ遺跡において小規模な円形の竪穴住居や、少数ながら墳墓がみられるようになり、移動狩猟採集生活から定住化の兆しがみられるようになる。弥生時代に入ると、立野・大坪遺跡や亀ノ甲遺跡、宿町遺跡等の前期後半の環壕遺跡が出現する。中期に入ると、前半から中頃にかけては竪穴住居が散発的にしか存在しなくなり、環壕のような大規模な遺構は全く確認できないようになる。ところが中期後半ごろになると、六反田遺跡のように大規模な集落域と墳墓域がセットになって出現するなど、再び大規模な大集落が形成される。また、前述した立野・大坪遺跡などから鉄器が出土するようになる。後期に入ると、各地で大規模な集落が形成されるようになる。室岡地区に所在する野口遺跡や道添遺跡、室岡工業団地内遺跡では鉄器や砥石が出土している。アモメ遺跡では非常に密集度の高い貯蔵穴群が発見されており、近くには墳墓群も存在し、近接した区域に大規模な集落が存在するものと思われる。また、同地区内に所在する茶ノ木ノ本遺跡の甕棺墓群からは方格規矩鏡、深樋式銅剣、鉄戈が出土しており、これらの事象は在地有力者の台頭とともに、大規模集落同士の統合が進んでいることを連想させる。

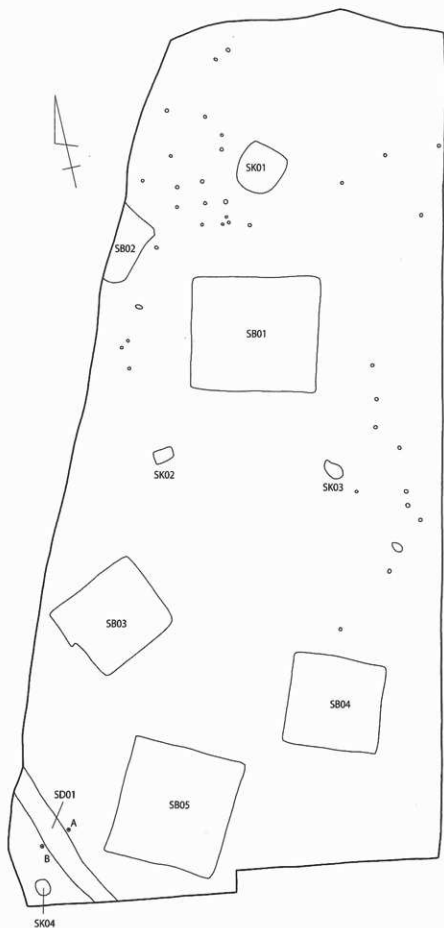
これと時をほぼ同じくして室岡台地上に所在する亀ノ甲・山ノ上周辺においても土地利用が再開、地形を人為的に改作し前代とは比較にならないほどの大環壕集落を形成する。西山ノ上遺跡においては原始鍛冶の痕跡とともに多量の鉄片、大陸由来の鑄造鉄斧片などの当時最先端の鉄素材が多量に出土するなど、一気に弥生時代における全盛期を迎える。しかし西山ノ上遺跡がみせるように後期後半～末頃にかけて鉄素材を放棄したり、居住域を大幅に縮小する傾向がみられる。原因は定かではないが、瀬戸内地区で多く見られる高地性集落の発生時期と重なるところもあり、注意すべき点と思われる。

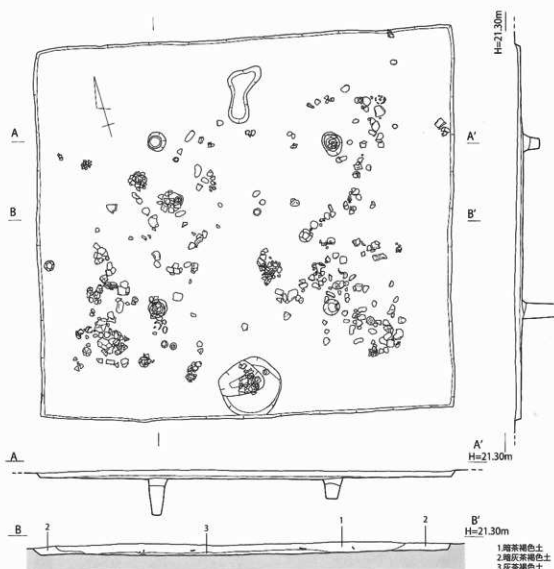




第2図 川原遺跡調査区〔1/5000〕

第3図 川原遺跡
遺構配置図 [1/200]





第4図 川原遺跡 1号竪穴住居 (SB-01) 実測図 [1/60]

3 調査の内容

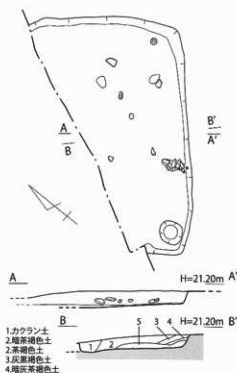
(1) 発掘調査の概要

ア 川原遺跡

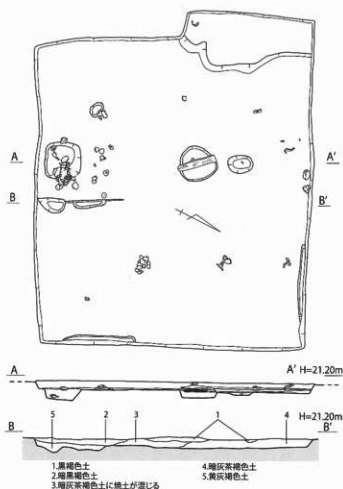
西田集落の北側にあり、標高21m前後で、井手口遺跡とほぼ同時期に調査が行われた。検出された5軒の竪穴住居跡のうち、1号、4号、5号はいずれも主軸方向がほぼ同じである。

遺構と出土遺物

1号竪穴住居 (SB-01) (第4図 図版1-2) 調査区中央北よりで検出された竪穴住居で、東西6.7m×南北6.1m、東西を長軸方向として6.7m×6.1m、柱穴は4本で、南壁中央に屋内土壇が設けられる。



第5図 川原遺跡 2号竪穴住居
(SB-02) 実測図 [1/60]



第6図 川原遺跡 3号竪穴住居 (SB-03) 実測図
[1/60]

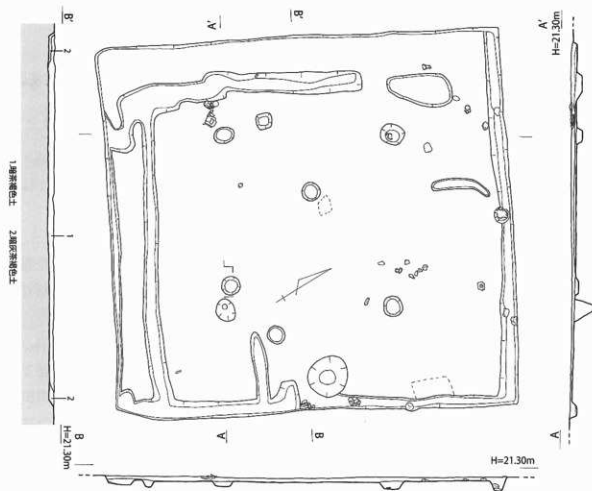
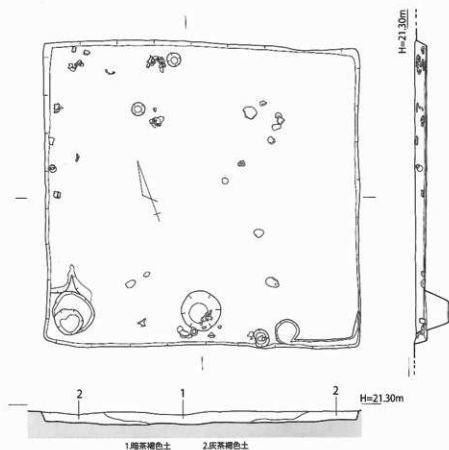
出土遺物 (第14図) 1～8は壺、9は壺か甕の底部、10～15は高杯、16～21は小型の丸底壺、22は器台、23～26は手づくね、27・28は投弾か。

2号竪穴住居 (SB-02) (第5図 図版1-3) 1号竪穴住居の北西側で検出された竪穴住居で北西側は調査区外である。平面図では北東側の壁は調査区境界付近でコーナーとなりつつあるように見え、仮にそれを北側の角とすると、3.8m × 2.6mである。

3号竪穴住居 (SB-03) (第6図 図版2-1) 調査区西側で検出された竪穴住居でほぼ東西を長軸方向とし、4.9m × 4.5m、明確な柱穴は確認できていない。南東壁中央付近にやや方形気味の深さ0.2mの土壌が検出され、遺物が多くがこの土壌から出土している。南西側壁面の北側半分は0.4m程度の張り出し部が確認できるが、別遺構の可能性も否定できない。

出土遺物 (第15図) 29は2号竪穴住居からの出土遺物で甕の口縁、30～38は3号竪穴住居からの出土遺物で30・31は壺、32・33は高杯、34～37は小型丸底壺で、

第7図 川原遺跡 4号
竪穴住居 (SB-04) 実測図
[1/60]



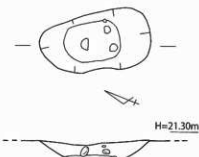
第8図 川原遺跡 5号竪穴住居 (SB-05) 実測図 [1/60]



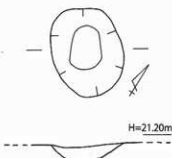
第9図 川原遺跡 1号溝状遺構 (SD-01) 土層断面図 [1/40]



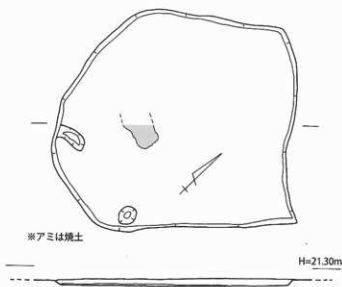
第11図 川原遺跡 2号土坑 (SK-02) 実測図 [1/40]



第12図 川原遺跡 3号土坑 (SK-03) 実測図 [1/40]



第13図 川原遺跡 4号土坑 (SK-04) 実測図 [1/40]



第10図 川原遺跡 1号土坑 (SK-01) 実測図 [1/40]

34～36は3号竪穴住居内北西側に集中している。38は押型紋土器の細片。

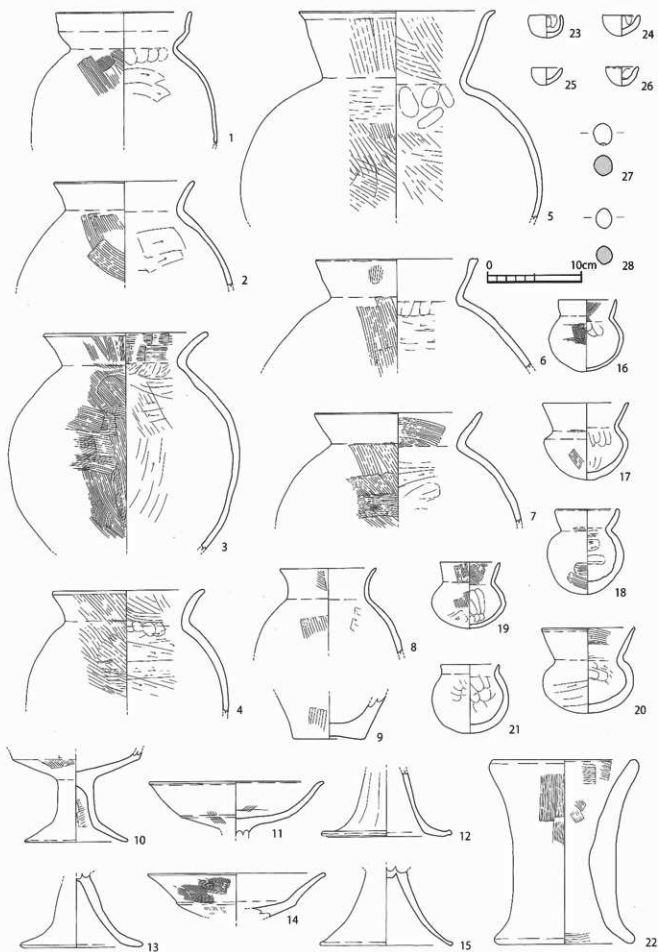
4号竪穴住居 (SB-04) (第7図 図版2-2) 東西方向を長軸とする5.1m×4.7mの竪穴住居で、明確な柱穴は検出できていない。出土遺物 (第16図) 39・40は甕、41は小型丸底壺で穿孔あり。42～47は高杯。

5号竪穴住居 (SB-05) (第8図 図版2-3) 南西隅で検出された竪穴住居で、南北方向を長軸として6.5m×6m、4本の柱穴が検出された。屋内に壁に平行して設けられた溝は西側から南側の壁面側にベッド状遺構が設けられていた可能性もある。

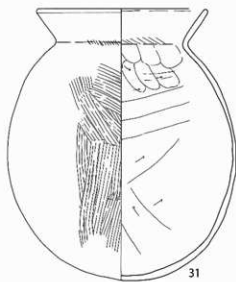
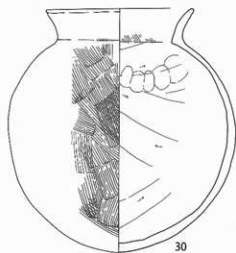
出土遺物 (第18図) 51は杯、52～55は高杯、56は壺。

1号溝状遺構 (SD-01) (第9図) 5号竪穴住居の西側に南北方向に走る溝状遺構で、幅1.1m、深さ0.5m弱で、ほぼ逆三角形の断面を呈する。

1号土坑 (SK-01) (第10図) 南北に長い楕円形に



第 1 4 図 川原遺跡 1 号竪穴住居 (SB-01) 出土遺物実測図 [1/4]



第 1 5 図 川原遺跡 2,3 号竪穴住居 (SB-02,03) 出土遺物実測図 [1/4]

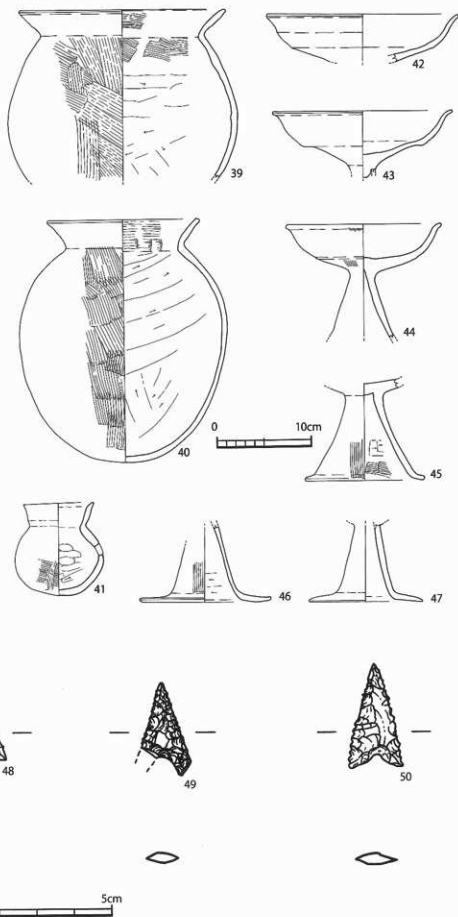
第16図

川原遺跡

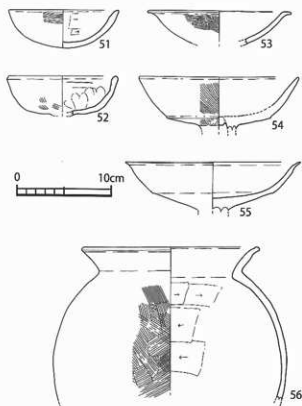
4号竪穴住居

(SB-04)

出土遺物実測図〔1/4〕



第17図 川原遺跡 2,4号竪穴住居(SB-02,04) 出土石製品実測図〔1/1〕



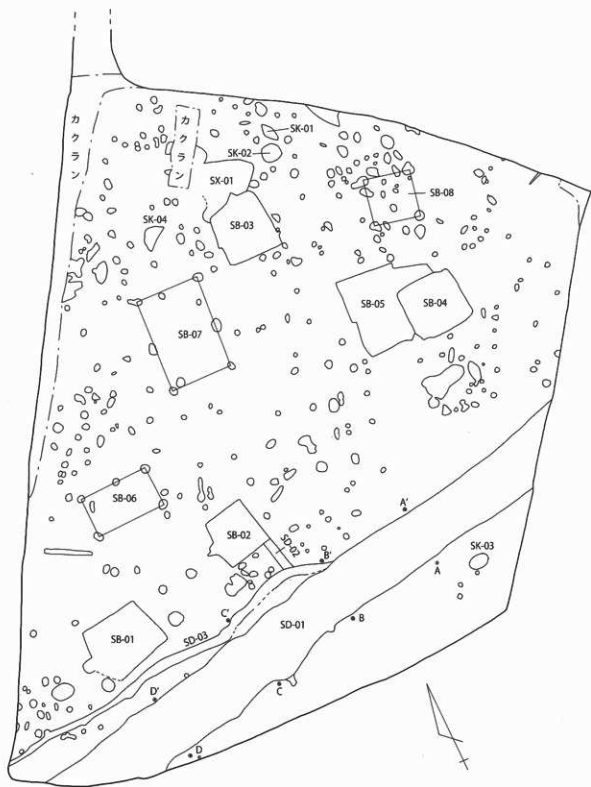
北側にコーナーを設けるような不定形の土壇で、南北を長軸として2.9m。出土遺物は無い。

2、3、4号土壇（SK-02,03,04）（第10,11,12,13図）4基の土壇が検出されたが、いずれも長軸1m程をはかる楕円形で、出土遺物は無い。

第18図 川原遺跡 5号竪穴住居(SB-05)
出土遺物実測図〔1/4〕



第19図 新替・打越遺跡 調査区 [1/5,000]



第20図 新替遺跡 遺構配置図 (1/200)

イ 新替遺跡

新替遺跡は平集落の北側にあり、標高22~23mにある。検出された遺構は竪穴住居5軒、掘立柱建物2棟、溝状遺構3条、土壇4基で、5軒の竪穴住居、および3棟の掘立柱はいずれもほぼ軸を同じくしている。調査区の1号溝状遺構(SD-01)の北側に遺構が集中し、南側は遺構の密度が低い(図版3-1, 3-2)。

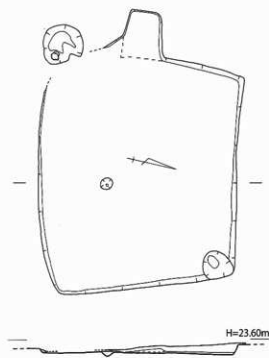
遺構と出土遺物

1号竪穴住居(SB-01) (第21図 図版3-3)

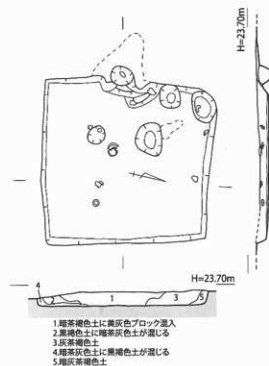
調査区西側で検出された竪穴住居で東西方向を主軸とし3.2m×3m、中央南寄りで見つかったピットは柱穴とは考えがたい。南側の壁が長い不定型な方形で、西側壁面の南側約3/5が0.6m程度張り出している。

2号竪穴住居(SB-02) (第22図 図版4-1)

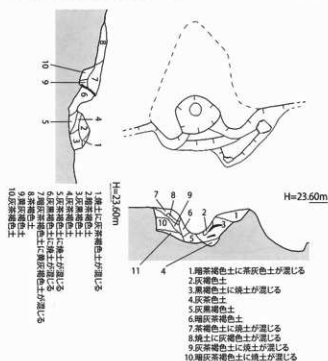
検出された1号溝状遺構北側中央で検出された竪穴住居で、南北方向を長軸とし、2.6m×2.1m、



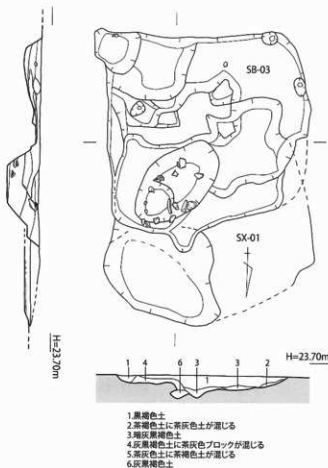
第21図 新替遺跡 1号竪穴住居
(SB-01) 実測図 [1/60]



第22図 新替遺跡 2号竪穴住居
(SB-02) 実測図 [1/60]



第23図 新替遺跡 2号竪穴住居 (SB-02)
カマド実測図 [1/40]



第24図 新替遺跡 3号竪穴住居(SB-03)

1号不明遺構(SX-01)実測図(1/60)

5が甕で4は西側のカマドから出土、6が壺、7・8は須恵器の蓋で8にはつまみが付く。9～17は3号竪穴住居からの出土遺物で、9～11は甕、10には把手が付く。12は土師器の、13は須恵器の高台付きの杯。15・16は須恵器の破片、17は土師器の蓋。18～20は4号竪穴住居からの出土で、18は土師器の杯、20は須恵器の杯、20は甕。

5号竪穴住居(SB-05)(第25図 図版5-1) 4号に切られ、西側壁が長い不定型なプランで南北方向を長軸として4.8m×4.2m、柱穴は確認することが出来ない。なお中央の土壌は住居に付随するものではない。

6号掘立柱建物(SB-06)(第26図 図版5-2) 1号竪穴住居北側で検出された掘立柱建物で南北柱間2.2m、東西1m70～2mを測る

7号掘立柱建物(SB-07)(第27図 図版5-3) 3号竪穴住居の南西側で見つかった掘立柱建物で1×2間で、東西の柱間は3m30、南北の柱間は2m45～2m60を測る。

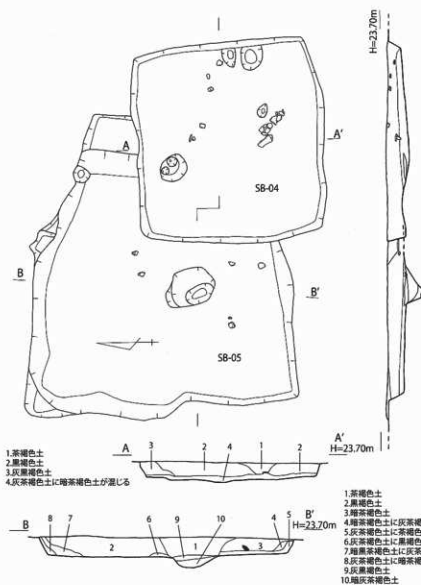
8号掘立柱建物(SB-08)(第28図 図版6-1) 調査区の北壁中央東よりで検出さ

西側にカマドを設ける。

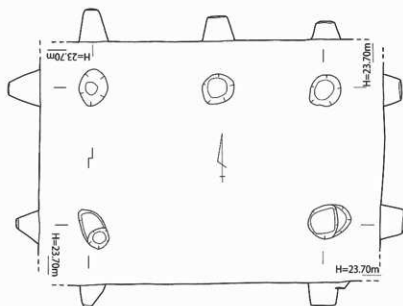
2号竪穴住居カマド(第23図 図版4-2) 西側壁中央に設けられたカマドで住居外部に煙道が伸びる。

3号竪穴住居(SB-03)(第24図 図版4-3) 調査区北側寄で検出された約3m×3mの竪穴住居で北側で1号不明遺構(SX-01)を切る。切られている1号不明遺構も3号竪穴住居と同様に隅丸方形のプランを呈しており規模も3m×3m程度である。

4号竪穴住居(SB-04)(第25図 図版5-1) 調査区の東側に検出された竪穴住居で、3m×3mで5号竪穴住居を切っている。1, 2, 3, 4号竪穴住居出土遺物(第35図) 1は1号竪穴住居出土の遺物で杯の底部。2～8は2号竪穴住居の出土遺物で、2・3が土師器の杯で4・



第25図 新替遺跡 4.5号竪穴住居 (SB-04,05) 実測図 [1/60]



第26図 新替遺跡 6号掘立柱建物 (SB-06) 実測図 [1/60]

れ、 1×1 間、柱間は東西2m40~2m80 × 南北2m50。

1号、2号土壌 (SK-01, 02) (第29図 図版6-2) SB-03の北東で検出された土壌で長軸1m程度の楕円形を呈する土壌である。出土遺物はない。

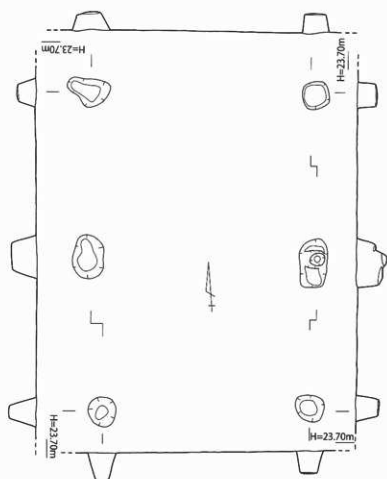
3号土壌 (SK-03) (第30図 図版6-3)

新替遺跡の遺構はほとんどが1号溝状遺構の北側で検出されているが、この3号土壌は1号溝状遺構南側、調査区南東側で検出された。南北方向を長軸長として1m10、深さ20cm弱の隅丸方形の土壌である。

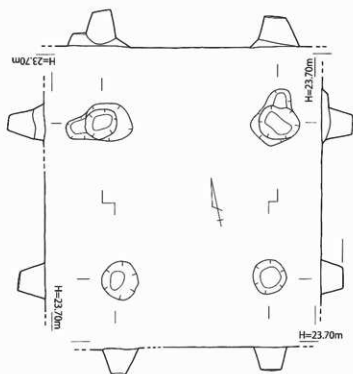
4号土壌 (SK-04) (第31図 図版7-1)

7号掘立柱建物北側で検出された土壌で、南北方向を長軸とし、0.7m × 0.6m、すり鉢状の断面を呈する。

1号溝状遺構 (SD-01) (第32, 33図) 調査区南側を東西に走る幅約2.5m、深さ40~60cmで平坦な底部



第27図 新替遺跡 7号掘立柱建物 (SB-07) 実測図 [1/60]



第28図 新替遺跡 8号掘立柱建物 (SB-08) 実測図 [1/60]

を持つ溝状遺構で、上層の幅1.5m～2m、深さ20～30cm程度の砂質黒褐色土の層が3号溝状遺構を切るが、下位に3号溝状遺構より古い層が確認できる。

2号溝状遺構 (SD-02)

2号竪穴住居跡南東隅から南に延びて3号溝状遺構に交わるが、新旧関係は不明である。

2号溝状遺構出土土器 (37図)

2号溝状遺構から出土した杯の底部片で底部内面に「田羅」の線刻文字、外面にヘラ記号が刻まれる。

3号溝状遺構 (SD-03) (第33図)

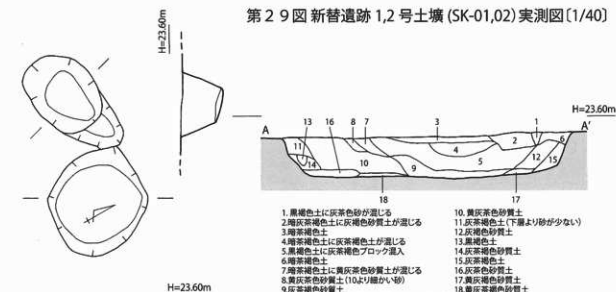
1号溝状遺構に平行して調査区南側を東西に走る溝状遺構で、2号竪穴住居の南東あたりで1号溝状遺構と合流する。1号溝状遺構の上層に切られる。幅は約60cmで深さ20cm～50cm。

5, 6号竪穴住居 (SB-05, 06)

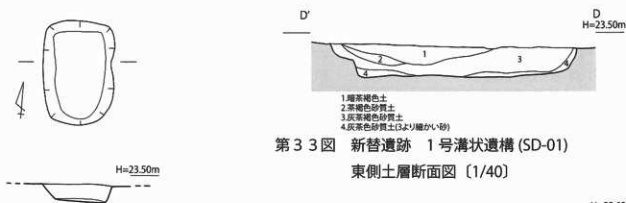
1号溝状遺構 4, 7号土壇出土遺物 (図36)

22～30、32～34、38～40、42～44は土師器で、21～24は5号竪穴住居からの出土品で21は須恵器の杯の底部、22は土師器の蓋のつまみ、23は甕、24は土師器の蓋。25は6号竪穴住居の出土土器で土師器の蓋。26～37

第29図 新替遺跡 1,2号土壌 (SK-01,02) 実測図 [1/40]



第32図 新替遺跡 1号溝状遺構 (SD-01) 土層断面図 [1/40]

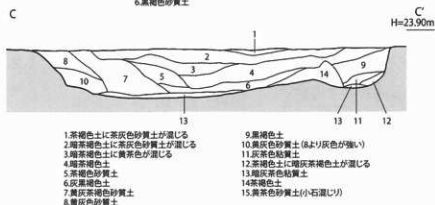
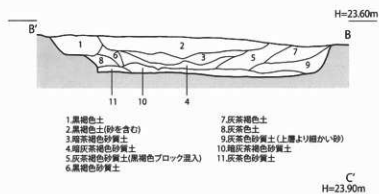
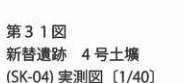


第33図 新替遺跡 1号溝状遺構 (SD-01) 東側土層断面図 [1/40]

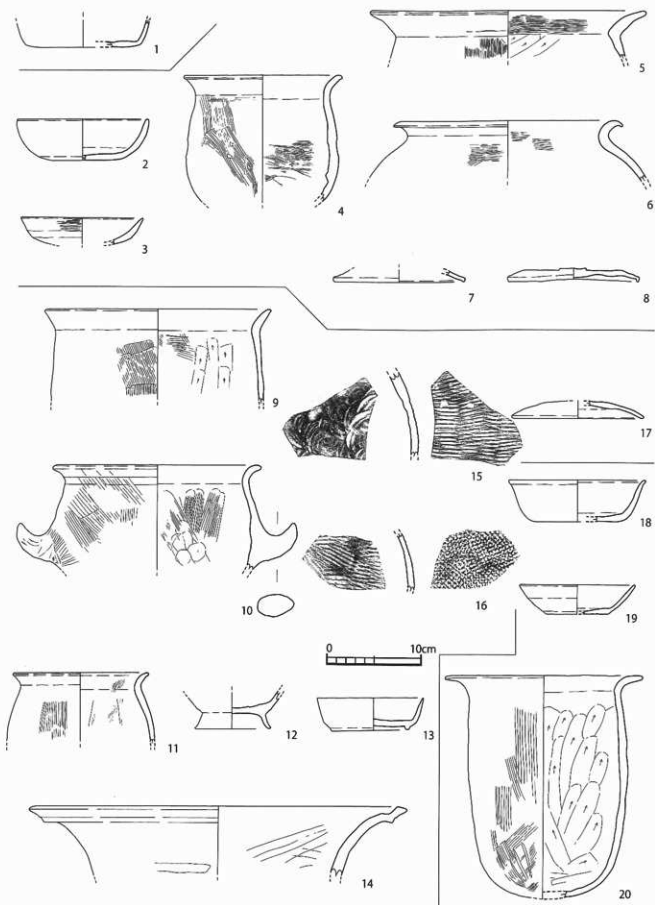
第30図
新替遺跡 3号土壌 (SK-03) 実測図 [1/40]



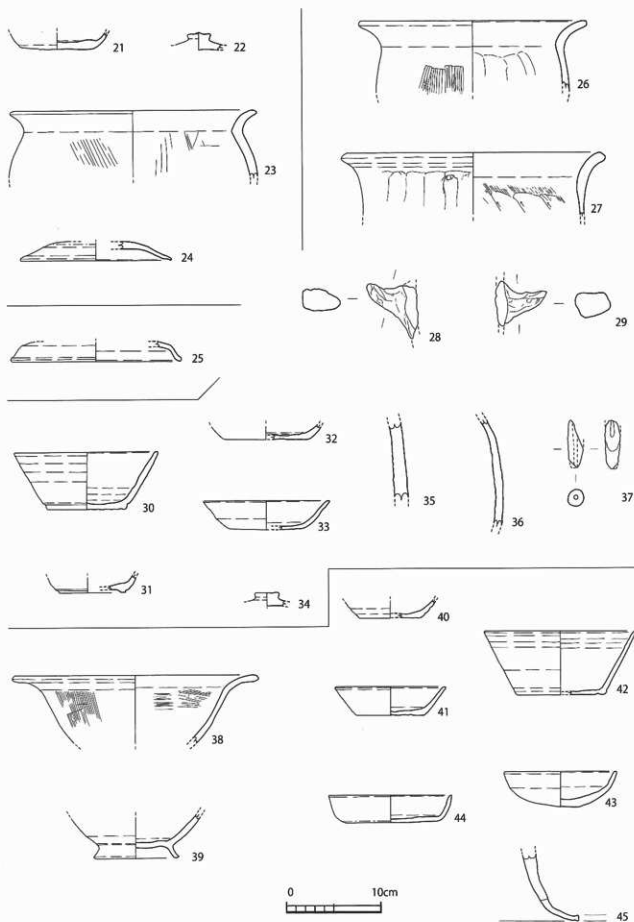
第31図
新替遺跡 4号土壌 (SK-04) 実測図 [1/40]



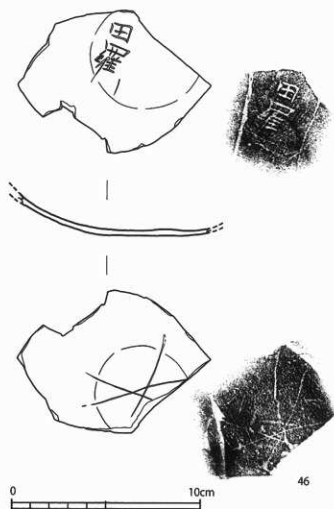
第34図 新替遺跡 1,3号溝状遺構 (SD-01,03) 土層断面図 [1/40]



第35図 新替遺跡 1,2,3,4号竪穴住居(SB-01,02,03,04)出土遺物実測図〔1/4〕



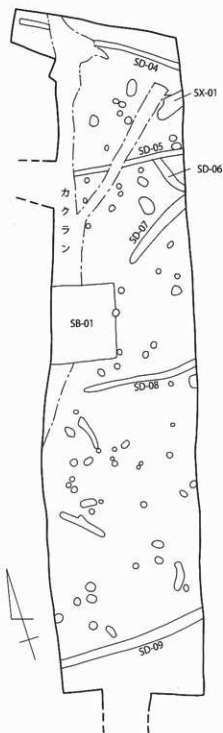
第36図 新替遺跡 5,6号竪穴住居(SB-05,06)1号溝状遺構 4,7号土壇(SK-04,07)4,76,106,111号ビット(P04,76,106,111)出土遺物実測図 [1/4]



は1号溝状遺構からの出土遺物で、26・27は甕、28・29は把手、30は鉢、31は須恵器の高台付の杯、32・33は杯で34はつまみの一部。35・36は須恵器片で37は土鍾。

38・39は4号土壇からの出土で38は土師器の鉢、39は高台付きの碗か。40は7号土壇からの出土で土師器の杯の底部。41～44はピット中からの出土で、41は瓦器の皿、42は土師器の鉢、43・44は土師器の杯。45は須恵器で高杯の脚部で3方向に透かしが入る。46は土師器の杯で、底部内面に「田羅」の線刻、底部外面にヘラ記号が入る。

第37図 新替遺跡 2号溝状遺構 (SD-02) 出土遺物実測図〔1/2〕



第38図 打越遺跡2地点 遺構配置図
[1/200]

ウ 打越遺跡

この打越遺跡は八女市文化財調査報告書第18集の概要報告で1地点と2地点に調査区を分けているように書かれているが、遺物の注記などから概報に掲載されていない南側の調査区を1地点とし、概報記載の1, 2地点をそれぞれ2, 3地点と読み替える。

(ア) 1地点 (図版7-3, 8-1, 8-2)

遺構と出土遺物

基盤整備の対象となる地区にて確認調査を行い、試掘坑で溝状遺構などの遺構が検出されると調査範囲を広げるようにして確認を行ったようである。そのようにして1号～3号の3条の溝状遺構が検出された。いずれの溝状遺構も幅およそ50～70cmで、出土遺物はない。

(イ) 2地点

八女市文化財報告第18集の概要報告では1地点となっていた地区である。竪穴住居1軒と多数の溝状遺構が検出された。

遺構と出土遺物

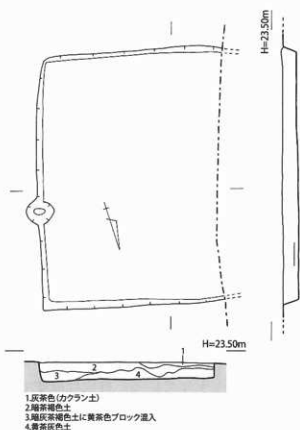
竪穴住居

1号竪穴住居 (39図) 調査区西側壁中央北よりで検出された竪穴住居で西側が調査区外となり、すべてを検出できていない。南北の幅は約4m10。

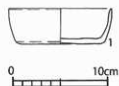
1号竪穴住居 (SB-01) 出土遺物 (図40) 遺物として須恵器の杯が出土している。

その他の遺構

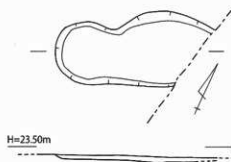
1号不明遺構 (SX-01) (第41図) 4号溝状遺構と5号溝状遺構に挟まれた地点にある南西-北東方向に長い不定型な遺構である。出土遺物はない。



第39図 打越遺跡2地点
1号竪穴住居 (SB-01) 実測図 [1/60]



第40図 打越遺跡2地点 1号
竪穴住居 (SB-01) 出土遺物実測図
[1/4]



第41図 打越遺跡2地点 1号
不明遺構 (SX-01) 実測図 [1/40]

(ウ) 3地点

八女市文化財報告 第18集の概要報告では2地点とされていた地区である。5軒の竪穴住居と12条の溝状遺構が検出された。竪穴住居は22号溝状遺構と20号溝状遺構に挟まれた地点に集中して検出され、すべて主軸を南北方向とする。

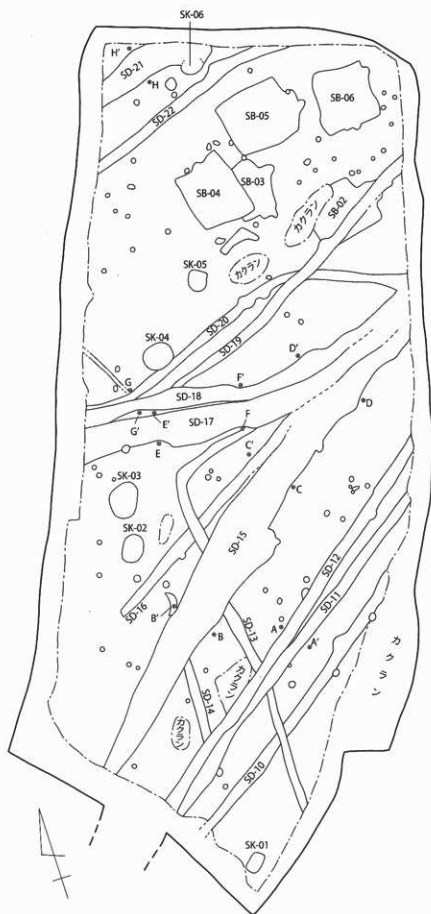
遺構と出土遺物

竪穴住居

2号竪穴住居 (SB-02) (第43図) 見つかった5間の竪穴住居のうち最も南側で検出され、19号溝状遺構を切る。東西方向を長軸として3m40×3m10、東壁中央南よりにカマドが設けられ、カマド内から土師器の甕が出土している。柱穴は検出出来なかった。

3号竪穴住居 (SB-03) (第44図) 2号竪穴住居の北西側で検出され、4号竪穴住居跡に切られる。南東側も別の土壌によって切られているようで、本来は南北を長軸とする2m90×2m50の隅丸方形を呈する竪穴住居であったと考えられる。柱穴は確認できない。

4号竪穴住居 (SB-04) (第44図) 南東にある3号竪穴住居を切る南北を長軸とする3m30×3mの方形の竪穴住居である。北壁中央にカマドを備えるが、中央北東寄りの土



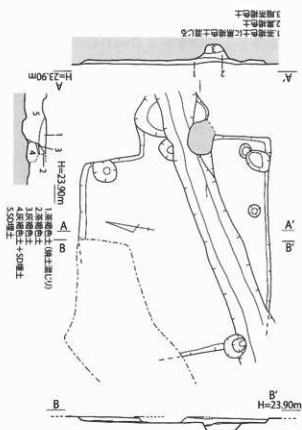
第42図 打越遺跡3地点 遺構配置図 (1/200)

境内にも焼土が見られる。

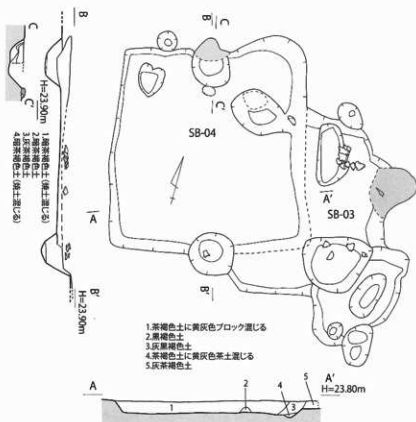
5号竪穴住居 (SB-05) (第45図) 3号・4号竪穴住居の北東側にあり、長軸を北東とする4m20×3m50程度の竪穴住居である。形は明確ではないが東側壁面中央が張り出しており、その南寄りにカマドが設けられる。カマドに向かって手前に焼土が広がり、土師器の甕などが出土している。柱穴は確認できていない。

2, 3, 4, 5号竪穴住居出土遺物 (第46図) 2～16までは土師器で、2は2号竪穴住居の出土遺物で鉢。3～5は3号竪穴住居の出土遺物で甕。5はカマドから出土。6～9は4号竪穴住居からの出土で6は甕、7～9は杯で9は高台付。10～17は5号竪穴住居唐の出土で、10～13は甕、14は杯。15・16は杯で、17は須恵器片。

6号竪穴住居 (SB-06) (第47図) 5号竪穴住居の東側で検出された3m×3mの方形の



第43図 打越遺跡3地点 2号竪穴住居 (SB-02) 実測図 [1/60]



第44図 打越遺跡3地点 3号, 4号竪穴住居 (SB-03, 04) 実測図 [1/60]

竪穴住居で、南西隅にカマドを設ける。柱穴は確認できていない。遺物は出土しなかった。

土壌

土壌は6基検出した。竪穴住居が検出された20号・22号溝状遺構に挟まれた地点にある4号・5号土壌からのみ遺物の出土がみられた。

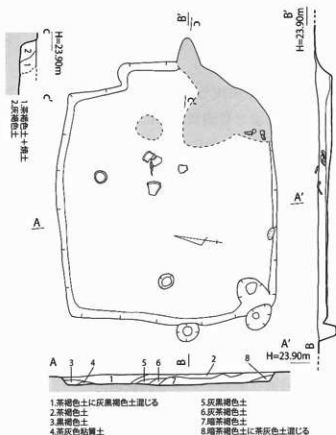
1号土壌 (SK-01) (第48図) 調査区の南端で検出された土壌で、南西-北東方向を長軸とし、 $1\text{m}15\text{cm} \times 70\text{cm}$ の楕円形を呈する。

2号・3号土壌 (SK-02, 03) (第49・50図) 今回の調査区内で最も規模の大きな15号溝状遺構と19号溝状遺構に挟まれた地点で検出された土壌で、2号土壌はやや東に傾いた南北方向を長軸として $1\text{m}50\text{cm} \times 1\text{m}$ 、3号土壌は南北方向を長軸として $1\text{m}90\text{cm} \times 1\text{m}40\text{cm}$ 、遺物の出土はない。

4号土壌 (SK-04) (第51図) 竪穴住居が検出された20号溝状遺構・22号溝状遺構の間に挟まれた地点で検出された土壌で、20号溝状遺構を切る。東西方向を長軸とした $1\text{m}40\text{cm} \times 1\text{m}30\text{cm}$ の隅丸方形を呈する土壌で、中央は 10cm ほど低くなる。

5号土壌 (SK-05) (第52図) 4号土壌の北東側で検出された土壌で、径 $1\text{m}50\text{cm}$ 程度の不定形の土壌である。

4号・5号出土遺物(第53図)



18～20は4号土壌出土の土師器で、18・19は甕、20は杯。21～25は5号土壌からの出土遺物で、21・22は鉢、23は土師器の杯、24は須恵器の杯、25は土師器の鉢。

6号土壌 (SK-06) (第53図)

21号溝状遺構と22号溝状遺構の間で検出された土壌で、東西方向を長軸として1m50cm×90cm程度であると考えられる。

11号溝状遺構・12号溝状遺構 (SD-11, 12) (第55図)

11・12号溝状遺構は調査区南側を南西―北東方向に走り、12号が11号を切るようである。幅は共に50cm程度

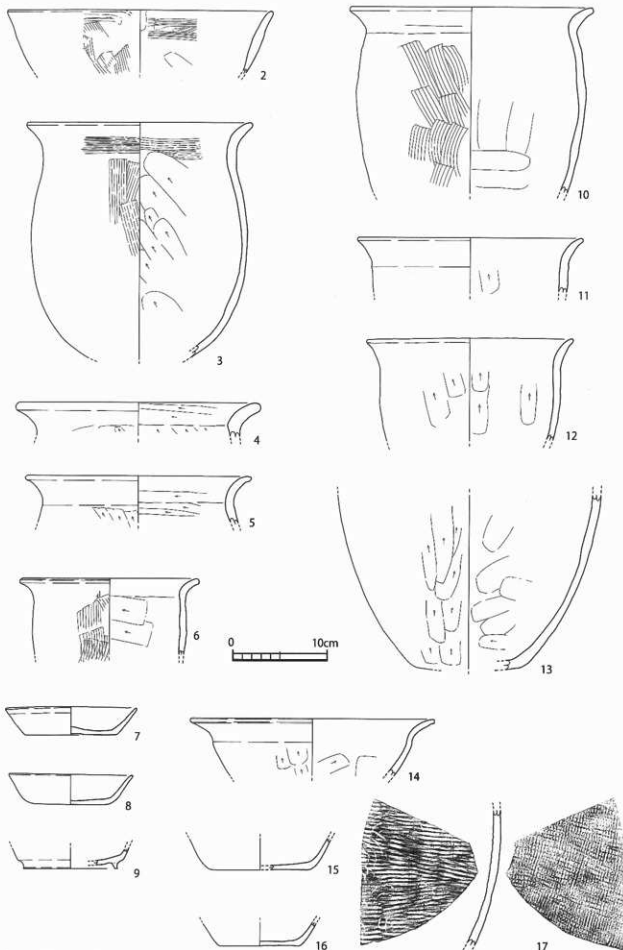
第45図 打越遺跡3地点 5号竪穴住居 (SB-05) であるが、11号が深さ30cmで断面実測図 [1/60]

11号溝状遺構は方形の断面で深さ60cmである。出土遺物はない。

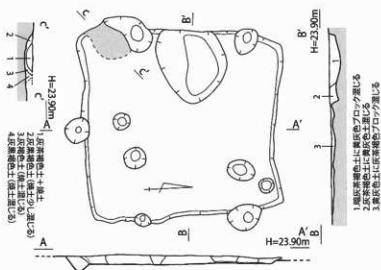
15号溝状遺構 (SD-15) (第56, 57, 58図) 15号溝状遺構は調査区南側を11・12号溝状遺構に平行に走り、幅は狭いところで1m50cm、広いところで3m近くとなる。深さは60～70cm、16号溝状遺構を切り、調査区中央東よりで17・18号溝状遺構と合流する。土層から観察して17・18号溝状遺構より15号溝状遺構が新しい。

12・15号溝状遺構出土遺物 (第59図) 26は12号溝状遺構出土土師器で土師器の口縁片。27～58は15号溝状遺構出土遺物 27～30は須恵器の壺、31は須恵器の杯、32・33は土師器の杯の底部片でヘラ切り。34は須恵器の杯、35・36は土師器の杯で36は高台付。27～41は須恵器の蓋で40・41にはつまみが付く。42は土師器のつまみ片。43～45は高台付の杯、46は土師器の鉢の底部片、47～51は把手 52～58は須恵器片。

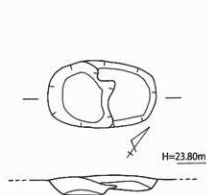
17・18号溝状遺構 (SD-17・18) (第58・60図) 17号溝状遺構は、調査区中央付近を東西に横断する形で18号溝状遺構に平行して走る遺構である。幅は検出面で約1m30cm、底部で約40cmの逆台形の断面を呈する。18号溝状遺構は、17号溝状遺構の北側を平行に走っている溝で幅約60cm、底部で約30cm。19・20号溝状遺構を切る。



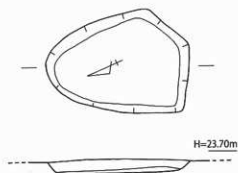
第46图 打越遗址3地点 2号,3号,4号5号竖穴住居(SB-02,03,04,05)出土遗物实测图 [1/4]



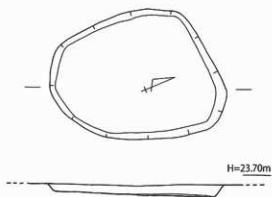
第47図 打越遺跡3地点 6号竪穴住居 (SB-06) 実測図 [1/60]



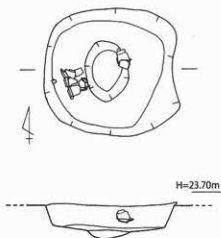
第48図 打越遺跡3地点 1号土坑 (SK-01) 実測図 [1/40]



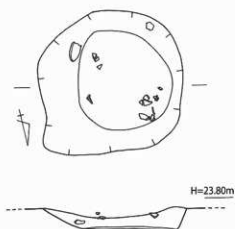
第49図 打越遺跡3地点 2号土坑 (SK-02) 実測図 [1/40]



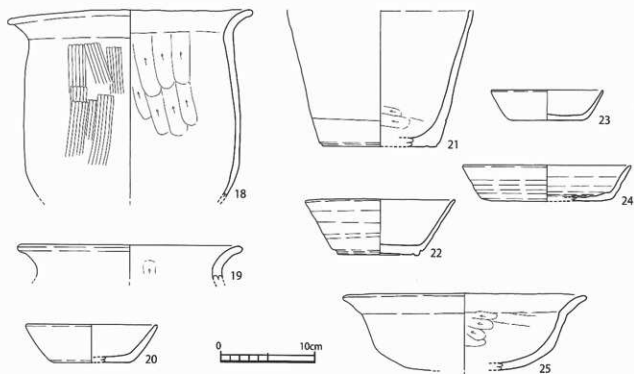
第50図 打越遺跡3地点 3号土坑 (SK-03) 実測図 [1/40]



第51図 打越遺跡3地点 4号土坑 (SK-04) 実測図 [1/40]

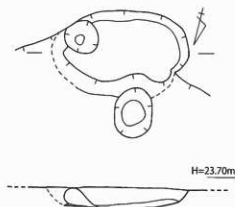


第52図 打越遺跡3地点 5号土坑 (SK-05) 実測図 [1/40]



第53図 打越遺跡3地点 4号,5号(SK-04,05)土壌出土遺物実測図〔1/4〕

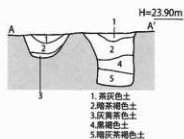
調査区中央あたりで17号溝状遺構に切られる。



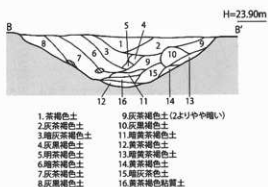
20・21号溝状遺構(SD-20・21)(第62図)

20・21号溝状遺構は調査区西壁中央あたりから北東に、はじめは平行して走るが、途中2号竪穴住居の南西あたりから20号溝状遺構は東側に逸れ、19号に切られる。出土遺物はない。

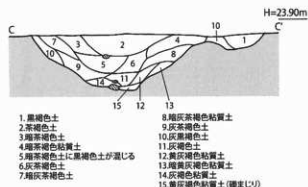
第54図 打越遺跡3地点 6号土壌(SK-06)実測図〔1/40〕



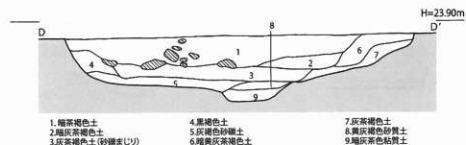
第55図 打越遺跡3地点 11号,12号溝状遺構(SD-11,12)土層断面図〔1/40〕



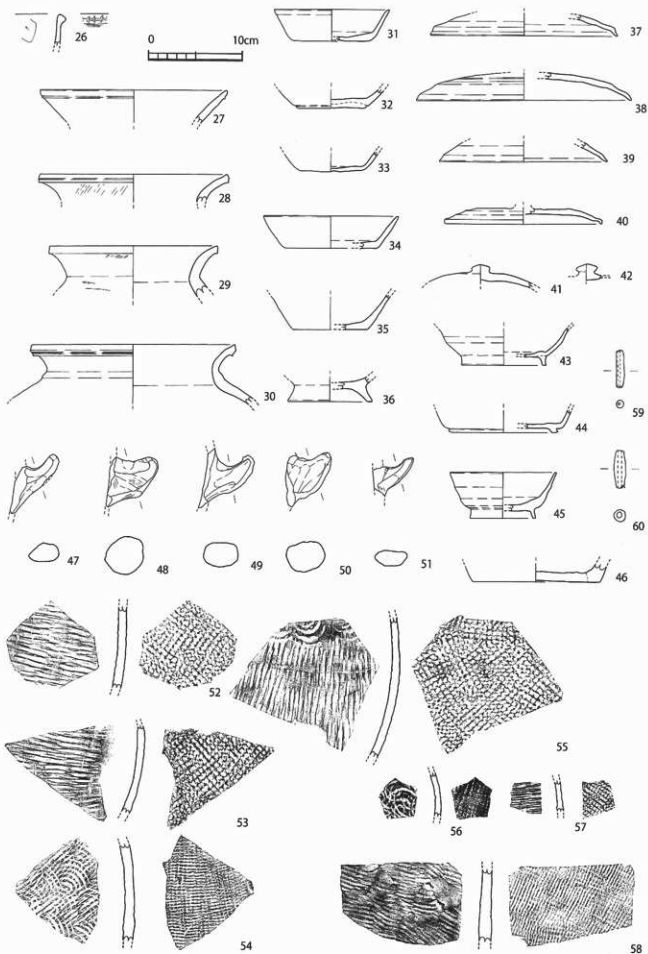
第56図 打越遺跡3地点 15号溝状遺構 (SD-15) 土層断面図 (1/40)



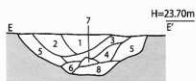
第57図 打越遺跡3地点 15号,16号溝状遺構 (SD-15,16) 土層断面図 (1/40)



第58図 打越遺跡3地点 15号,17号溝状遺構 (SD-15,17) 土層断面図 (1/40)

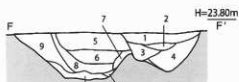


第59図 打越遺跡3地点 15号溝状遺構(SD-15)出土遺物実測図(1/40)



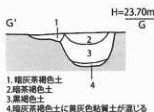
1. 暗茶褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 暗茶褐色土
5. 暗茶褐色土
6. 暗茶褐色土
7. 暗茶褐色土
8. 暗茶褐色土 (砂質を多く含む)

第60図 打越遺跡3地点 17号溝状遺構 (SD-17) 土層断面図 [1/40]



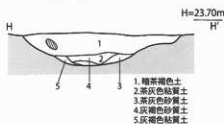
1. 暗茶褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 暗茶褐色土
5. 暗茶褐色土に黒褐色土が混じる
6. 暗茶褐色粘質土に黄灰色粘質土が混じる
7. 暗茶褐色土に黄灰色土が混じる
8. 暗茶褐色土
9. 暗茶褐色土
10. 暗茶褐色土
11. 黄灰色砂質土

第61図 打越遺跡3地点 17号,18号溝状遺構 (SD-17,18) 土層断面図 [1/40]



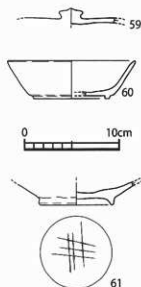
1. 暗茶褐色土
2. 暗茶褐色土
3. 暗茶褐色土
4. 暗茶褐色土に黄灰色粘質土が混じる

第62図 打越遺跡3地点 18号,20号溝状遺構 (SD-18,20) 土層断面図 [1/40]



1. 暗茶褐色土
2. 茶灰色粘質土
3. 茶灰色砂質土
4. 灰褐色砂質土
5. 灰褐色粘質土

第64図 打越遺跡3地点 21号溝状遺構 (SD-21) 土層断面図 [1/40]



第63図 打越遺跡3地点 18号溝状遺構 (SD-18) 及び包含層出土遺物実測図 [1/4]

圖 版

図版 1

図版 1-1

川原遺跡 全景
(南から)



図版 1-2

川原遺跡

1号竪穴住居

(SB-01) 東から



図版 1-3

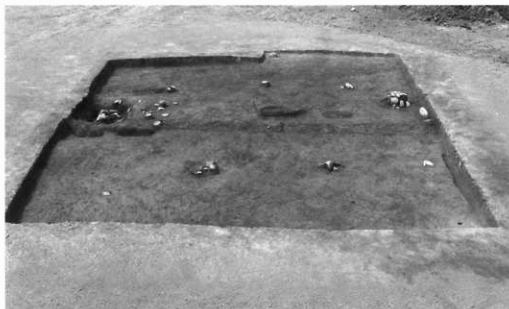
川原遺跡

2号竪穴住居

(SB-02) 南東から



図版 2



図版 2-1

川原遺跡

3号竪穴住居

(SB-03) 北東から



図版 2-2

川原遺跡

4号竪穴住居

(SB-04) 北から



図版 2-3

川原遺跡

5号竪穴住居

(SB-05) 北から

図版 3

図版 3-1

新替遺跡 全景
(南から)



図版 3-2

新替遺跡 全景
(北から)



図版 3-3

新替遺跡
1号竪穴住居
(SB-01) 北から



図版 4



図版 4-1
新替遺跡
2号竪穴住居
(SB-02) 北から



図版 4-2
新替遺跡
2号竪穴住居
(SB-02) カマド



図版 4-3
新替遺跡
3号竪穴住居
(SB-03),
1号不明遺構
(SX-01) 東から

図版 5

図版 5-1

新替遺跡

4号竪穴住居

(SB-04),

5号竪穴住居

(SB-05) 西から



図版 5-2

新替遺跡

6号掘立柱建物

(SB-06) 南から



図版 5-3

新替遺跡

7号掘立柱建物

(SB-07) 西から



図版 6



図版 6-1

新替遺跡

8号掘立柱建物

(SB-08) 東から



図版 6-2

新替遺跡

1号, 2号土壇

(SK-01,02) 東から



図版 6-3

新替遺跡

3号土壇

(SK-03) 北から

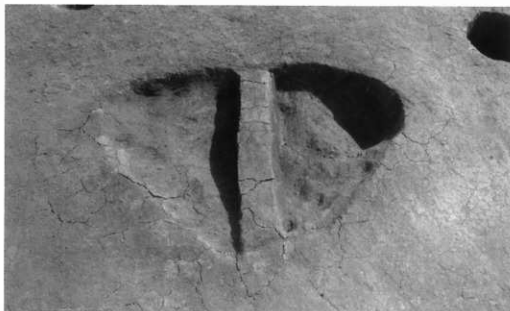
図版 7

図版 7-1

新替遺跡

4号土壇

(SK-04) 北西から



図版 7-2

新替遺跡

1号溝状遺構

(SD-01) 東から



図版 7-3

打越遺跡 1 地点

1号溝状遺構

(SD-01) 東から





図版 8-1 打越遺跡 1 地点 2 号溝状遺構
(SD-02) 北から



図版 8-2 打越遺跡 1 地点 3 号溝状遺構
(SD-03) 北から



図版 8-3
打越遺跡 2 地点
全景南から



図版 8-4
打越遺跡 2 地点
1 号竪穴住居
(SB-01) 東から

図版 9

図版 9-1

打越遺跡 3 地点
全景



図版 9-2

打越遺跡 3 地点
2 号竪穴住居
(SB-02) 西から



図版 9-3

打越遺跡 3 地点
3 号, 4 号竪穴住居
(SB-03, 04) 西から



図版 10



図版 10-1
打越遺跡 3 地点
5 号竪穴住居
(SB-05) 西から



図版 10-2
打越遺跡 3 地点
5 号竪穴住居
(SB-05) カマド



図版 10-3
打越遺跡 3 地点
6 号竪穴住居
(SB-06) 東から

図版 11

図版 11-1

打越遺跡 3 地点
1 号土壇 (SK-01)
北西から



図版 11-2

打越遺跡 3 地点
4 号土壇 (SK-04)



図版 11-3

打越遺跡 3 地点
5 号土壇 (SK-05)





图版 12

图版 12-1

打越遺跡 3 地点

6 号土坑 (SK-06)



图版 12-2

打越遺跡 3 地点

10 号, 11 号,

12 号溝状遺構

(SD-10, 11, 12)



图版 12-3

打越遺跡 3 地点

15 号溝状遺構

(SD-15)

图版 13

图版 13-1

打越遺跡 3 地点

17 号溝状遺構

(SD-17,18,19,20)



図版 14

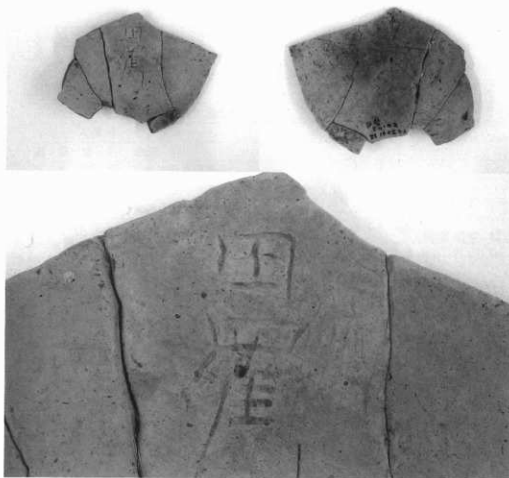
図版 14-1

新替遺跡

2号溝状遺構

(SD-02) 出土土器

(46)



図版 14-2

打越遺跡 3地点

18号溝状遺構

出土土器

(61)



報告書抄録

ふりがな	やめしなしいせきぐん							
書名	八女市内遺跡群 5							
副書名	福岡県八女市新庄・平・国武所在遺跡の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ番号	108集							
編著者名	永田 享							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	834-8585 福岡県八女市本町647 TEL 0943-23-1982							
発行年月日	西暦 2015年 3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
かわはらいせき 川原遺跡	ふくおかけん 福岡県 やめしなしいせきぐん 八女市新庄 あざかわはら 字川原		7013	33°12' 09"	130°32' 07"	1988.07.29~ 1988.09.27	500㎡	
しんかさいせき 新替遺跡	やめしなしいせきぐん 八女市平 あざしんかさい 字新替		7010	33°11' 44"	130°32' 44"	1988.09.27~ 1988.10.28	810㎡	園地整備
うちごしせいせき 打越遺跡	やめしなしいせきぐん 八女市国武 あざうちごし 字打越		7007	33°11' 42"	130°32' 43"	1988.10.22~ 1988.12.02	2800㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
川原遺跡		弥生	溝状遺構		弥生土器 砥石 鉄器			
新替遺跡	集落	古代	竪穴住居 掘立柱建物 溝状遺構		須恵器_土師器		「田羅」の線刻のある土師器	
打越遺跡		古代	竪穴住居_溝状遺構		須恵器_土師器			
要約	川原遺跡では弥生時代中期後半及び古墳時代初頭の集落で。新替・打越遺跡は8世紀頃の集落で、北東-南東方向に走る溝状遺構の東側の間に集落が検出された。いずれも遺構の密度はそれほど高くない。							

八女市内遺跡群 5
八女市文化財調査報告書
第108集

平成27年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市新橋院563